

和剣

和歌山県スポーツチャンバラ協会
〒641-0007 和歌山市小雑賀89
TEL 073-422-0308
FAX 073-427-6328

VOL. 69

2011年 6月20日

1. 第23回合同稽古会及び第8回大会最終実行委員会のお知らせ。

6月25日(土)の午後7時から9時までの間、本町道場(福森理事管下)で標記会同を実施します。翌26日(日)の河南総合体育館での大会に備え、この1年間の心身と刀法の練磨の成果をお互いに試し合い、加えて、翌日の大会に臨む企画・運営の細目を相互確認します。

2. 「本町道場」再開のお知らせ。

暫らく休止していた本町道場(福森理事代表)での稽古を再開。稽古日時は毎月の第1土曜日と第3土曜日の午後1時から3時まで。従前以上に充実した修行への道筋が期待されます。

3. 「紀の国わかやま国体」デモスポ競技へ向けて。

福森・由良・石上・安田の4名が6月30日の午後、第70回国民体育大会和歌山県準備委員会を訪問し、デモスポ競技の準備・開催についての情報収集と意見交換を行います。10月11日から17日までの間に、開催意向調書を提出するべく、福森実行委員長・由良事務長を中心に、開催地となることを見込む市町村との折衝を含め、鋭意、堅実な準備を進めています。

4. 会報「和剣」の送達。

従前から行政へ定例的に送付している、協会活動の現況報告を兼ねた会報(写し)は、5月30日付けでVol. 64~68を下記の関係機関に宛て、郵送しました。

①和歌山県体育協会。②和歌山県レクリエーション協会。③和歌山県国体準備課。

☆ 破邪顕正—ガッツポーズ(井上義彦 範士八段「剣道放談」)★

剣道と他のスポーツとの差は、試合を見ているとよくわかります。例えば、他のスポーツは、勝利をしたときにガッツポーズをするでしょう。しかし、剣道では、それはしてはならないと言われてますね。でも、本当は「してはならない」のではなくて「できないものなのだ」というのが正しいのです。剣道とは、精神レベルでは真剣での勝負です。刃物と刃物のぶつかり合いです。有効打を当てるということは、すなわち相手に瀕死の重傷を与えるか、もしくは殺しているということです。言い換えれば、それまで生きていた人間を、自分の刀でリアルに切り裂いた状態ですね。相手は恐らく、おびただしい血液を流し、恐ろしい断末魔の声をあげ、眼前に倒れているはず。そんな状況に置かれたと想定すれば、勝利を得たからといってガッツポーズなどとれるはずもありません。〈中略〉自分の命を守るためとはいえ、自分が殺してしまった人間が眼前に血を流して転がっていたとすれば、人は自分のしてしまった行為に対して後悔をし、やがて「反省」という意識にさいなまれますよね。で、「反省」ができたなら、次は死んだ相手の「冥福を祈る」ことができます。相手を「攻め」た後は、すぐに反省して自分を「責め」なければならない。「攻め」が生じれば、それと等しく「責め」も生じる。こういう精神こそが、世界に誇る剣道の特質だと言えるでしょう。大切なのは想像力です。真剣で相手を切っていることを、稽古のときからきちんとイメージすることです。

(ベースボールマガジン社 編集「剣道攻めの極意」ベースボールマガジン社 発行 より抜粋)